

NUFS Workshop 2013

*Newsletter No. 11***Final Presentation**

Date: March 29, 2014, 13:30-17:30

March 30, 2014, 9:00-12:00

Venue: Conference room at XIV Biwako

The number of participants: 17

Advisors: Nancy Mutoh, Kazuyoshi Sato (NUFS),
Robert Croker (Nanzan University)

Abstract: Each action research group member made their final presentation on their action research. They reported what they did, what happened, what they learned, future issues and so on.

**Comments from the participants****1. How do you feel of a monthly workshop? Did you learn any good ideas from the instructor?****Which one(s) did you like the best? What kinds of topics do you want for future workshops?**

- The monthly workshop is a vital part of my learning experience in the MA in TESOL Program. I have learned valuable lessons from the professors/presenters. I would like to see more interactive workshops with practical applications.
- I feel extremely overwhelmed with the activities I learned from the monthly workshop. These were all ideas that I could try to my own classroom. I like the “motivating students” workshop I attended since it broadens my understanding about supporting the student’s growth and development towards language learning experience.
- 毎回本当に勉強になりました。理論や知識を学ぶとともに、すぐに実践可能なことも多く参加するたびに「来てよかった」と思いました。教師は常に勉強を続けていかなくてははいけないと感じました。どのワークショップも本当によかったのでベストを決められません。印象に残っているものは、Tim Murphey 先生のワークショップ、Curtis Kelly 先生の「生徒のやる気を引き出す指導」、Marc Helgesen 先生のワークショップです。教師として何が大切なのかに気づかされました。「ドラマの指導」や「iPad を使った指導」はやってみたいと思いました。多読は自分の興味がある分野で面白かったです。Communication Strategy はすぐに実践することができとてもよかったです。今後は「授業の Goal をどう決めるのか」、「Can Do リストの話」などもっと勉強したいです。
- コミュニカティブな英語の授業はまだ現場では浸透していない。そして結局、従来通りの方法で授業をしている先生が多い。そんな中で「授業をコミュニケーションにしよう」と言うのは大変でしたし、気持ちが揺らぎそうな時もありましたが、このワークショップに参加することで、「仲間がたくさんいる」という安心感を得ることができました。まだまだチャレンジしなくてはという気持ちになりました。“How to create effective handouts based on the theory of focus on form” (Miwako Kushiro)が一番印象に残っています。どうやって授業を作るかということも大変参考になりましたし、実際にグループでプリントを作り複数人で協力して作ることで、時間短縮・アイデアも豊富になりました。グループで授業を作っていくことの大切さを知りました。
- 新聞でワークショップの事を知り、今年 1 月 11 日に初めて参加させていただきました。レッスンの中にドラ

マを取り入れるという手法に興味があったからです。英語は言葉であるという当たり前のことを伝えたくて、子どもによっては英語落語に挑戦させたり、プレゼンをさせたりしていますが、みんなが楽しく夢中になって英語を話せる機会をもっと作りたいと思い、アイデアを探しに参加しました。また、中学、高校で教えられている先生方と話すことで、今、私たちが小さい子たちにしていることが正しいのか、何をしてあげれば先にうまく繋がるかを知るきっかけになるかと思ったからです。はじめのウォーミングアップも、絵本に効果音を自分たちで作ってストーリーを完成させていく体験もストーリーへの導入でさえも、やっていて楽しく、とても参考になりました。小さい子どもでも可能ないろいろなゲームのアイデアも交換できるとうれいのです。

2. What do you think of the action research project you have participated in 2013? Did it help you to improve your teaching skills? (For the participants of the second session only)

- I truly enjoyed doing my AR since it completely changed the way I teach my class specifically for lesson planning and the learning I gained from the constructive comments made by our great professors. It also helps me to widen my horizon to understand that teaching is something that we should value. This important discovery about improving our teaching skills will greatly support our students towards a bright future.
- 指導を計画的に、活動をそれぞれ関連付けて考えるようになりました。アドバイザーのアドバイスが新しい視点を与えてくれ、指針になりました。他の先生の発表、レポートも自分のレポーターとなり、実践させていただきました。アイデアの宝庫です。
- とても刺激的な場所です。質問をしてその場で回答が得られるので参加する意義を毎回感じています。ありがとうございます。
- みなさんのファイナルレポートを聞いていて思ったこと：自分がやった実践に満足して、あれも見せたいこれも見せたいとなるのは当然のことかと思います。でも、そこに全部ではなくて、ポイントを押さえてプレゼンテーションしていくことが大事だと思いました。せっかく撮ったからビデオを見せるとか、使ったハンドアウトを全部見せるとか、気持ちはわかるのですが…。どの学会や研究会も発表時間が決められているように、私たちのARレポートも、発表のクオリティーを上げていく必要があると思いました。ワークショップでは、教授法だけでなく、一回くらい研究発表の仕方、スライドの作り方、ビデオクリップ使用のポイントなどを学ぶ機会があってもいいかもしれません。



3. How was a monthly report and presentation? (For the participants of the second session only)

- At first, it was really difficult since it has been a while since I did monthly presentation in front of other professionals. I always feel the need to improve my report and presenting it effectively. However, since we all have different participants in our own AR projects, some of the presentation skills and techniques could be adapted and developed. Grouping the reports according to teaching context is really effective in a sense that we could relate our own class.
- 実際に先生方がどのように授業をやっているのかが具体的にわかり、自分の授業に使ってみようとなりました。先生方も自分たちの授業を誇らしく話してくださり、こういう場が授業作りのモチベーション維持に役立つのだと思います。
- いろいろなアイデアをもらえて勉強になりました。高校で教えていますが、小学校、中学校、そしてプライベートスクールの様子など、普段交流のない校種の指導内容を知ることができて、英語教師としての幅が広がったと感じる。

- 参加者の方のレポートを読んだり実践報告を聞きながら、「自分ならこうする」「そういう指導方法もあるのか」と考える時間を持つことが大変貴重であると毎回感じています。
- 最近はおブザーも多くて、みなさんの意見が聞けるので勉強になります。ポストイットでコメントをいただくのは、本当に良い考えだと思います。それより何より、佐藤先生や、ナンシー先生やロバート先生の意見はいつも適確で、納得しまくりです。ここが、私たちの教員同士の研究会との一番大きな違い、メリットです。



4. What is(are) the reason(s) of not being able to attend monthly workshop?

- 若い先生方は部活動指導で休日出勤を「義務」づけられているようなものですから、それが一番障害になっていると思います。県教委に働きかけ、1年～3年間の「研修のための部活動指導軽減の措置」とかいうようなものが制定されない限り、若い先生方が自己研修としてワークショップに参加することは難しいと思います。
- 今は育児休暇中のために子どもを家族の者が見てくれないと参加できません。また、仕事をしている間は部活動や模試等学校の仕事が土曜日に結構入るので参加するのは難しかったです。育児休暇中の今のほうがかえって参加しやすいです。
- 部活動で、文化部にしてもらい、土曜日は学校行事が入らないように、努力をしています。すべてのことに、優先させてもらっています。
- 土曜日に仕事(学校行事)が入ったため。残念でした。

5. How can we improve this action research/ monthly workshop project? How can we attract more teachers? Please write your comment/advice.

- I suspect the goal of the action research period is, among a number of things, to have the students become familiar with and habitualize the format and practice of reviewing one's lessons, posing questions, and looking for solutions. These goals are being addressed. However, based on comments by some of the more experienced members and organizers, focusing the teachers on making their lessons more language producing (communicative) is a key target of these sessions. There has been some misunderstanding or miscommunication at several of the sessions about whether an activity was language producing or not. Perhaps it would be good to identify the aspects of the lesson if this continues or for newcomers to increase their awareness of this point. For example: I did such and such an activity with my students. That was the input aspect of my lesson...
- The people behind this monthly workshop are all amazing. I couldn't ask for more since they really work hard to facilitate each workshop. I would appreciate if there would be a separate workshop for teaching children since there is a vast of English schools offering language learning to young learners in Nagoya.
- 教師になって数年もすると、ほとんどの人たちは毎日の生活に流され自己研修の必要性を忘れてしまいます。教える人こそ学ばなければいけないのに、恐ろしい事に「学ぶ必要性」を感じる心がだんだん消えてしまいます。マスコミ等で話題になっている著名な英語教育者が「講師」として、このような「惰性」に刺激を与えてくれ、「目からうろこ」的な体験をさせてくれるかもしれません。「著名人」は集客力がありますから、教師としての向上心がある人たちの興味関心を引くことができ、参加者が増えるかもしれません。
- このワークショップについてまだ知らない先生方が多いと思います。岐阜県では各務原高校の公開授業があり、岐阜県の先生方が公開授業に行く機会があると思いますが、愛知県ではそのような場がないので愛知県の先生方にも何かそういう場があるといいなと思いました。

- なかなか土曜日に長時間とることができず、最後までは参加できないのですが、いろいろな先生方と交流できるのは、いい刺激になるので、また機会があれば参加したいと思っています。幼稚園児から高校生まで、それぞれの場面でこういうことをやって次にバトンタッチすれば、英語教育がスムーズに進むというような流れが出来るといいですね。
- Facebook などの SNS を使い、この活動を伝えると参加者増の期待がもてるのでは？

Thank you for your cooperation to NUFSS Workshop in 2013. We are looking forward to seeing you again in 2014.